

商業科研究授業学習指導案

学 校 名 関西大学

指導者 職・氏名 実習生 [redacted]

指導日時・教室 令和 4 年 6 月 9 日 (木) 1 限目 教室名 [redacted]  
 対象生徒・集団 [redacted] 2 年 (次) 生 [redacted] 人 (内訳 [redacted] 人)  
 (科 目 名 ビジネス経済 (単位数 2 単位))  
 使用教科書 ビジネス経済 (出版社名 実教出版)

1 教科が生徒に身につけさせたい力及び指導上の課題

(1) 教科が生徒に身につけさせたい力 *本校としてどう力を付けていきたいかへ*

① 学習指導要領商業編ビジネス経済の目標では、ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得させ、経済の仕組みや概念について理解させるとともに、経済事象を主体的に考える能力と態度を育てることとしている。

(2) 指導上の課題とこれまでの取組

ビジネスと経済の市場とビジネスの成立と市場経済と計画経済

需要と供給の変化によって価格に影響を与えていることをビジネス基礎で学習してきている。この単元では、平均費用や限界費用の変化が価格に与える影響についてグラフや表を用いて理解を深めていく。また、最適生産量は実践にも結びつきやすいものである。販売価格、平均費用、限界費用、市場内での状況を主体的に考察する。

2 単元 (題材) 名 供給の概念と供給の変化

3 単元 (題材) の目標

- 関心・意欲・態度 : 供給の概念と供給と価格や費用の関わりに興味を持ち、価格に与える影響を迫及する。
- 思考・判断・表現 : グラフや表から需要と供給、価格との関係について説明する。
- 技能 : 需要と供給、価格が互いに与えている影響についてグラフを用いて説明する。
- 知識・理解 : 需要と供給、価格が互いに影響を与えていることを理解する。

4 指導に当たって

(1) 生徒の状況

明るく、発言力が高い生徒が多いため、グループワークを行うと、積極的に授業に参加してくれる。しかし、自主的に勉強していこうと行動している生徒としていない生徒とで、理解の差がある。需要と供給は1年次でビジネス基礎でも学んでいるが、実際に理解している生徒は少ないと感じる。

(2) 教材観・教材選定の理由 *→ くりり意味があり、このように教えた*

① 学習指導要領の「ビジネス経済」の (2) の内容 (イ) 「供給の概念と供給の変化」では、供給の概念、価格や所得と供給の関係、供給の弾力性、固定費と変動費の概念、限界分析の考え方及び技術の進化による新市場の創出や供給への影響について理解させることをねらいとしている。

(3) 指導方針・方法 *学習指導要領・解説 順番で10, K*

はじめに、理解度を統一に授業を進めていく上では、グループワークを行い、教え合いの場を設けること。次に、分かりやすい資料作成を行うことが重要である。さらに、主体的に考察していくために、具体的な数値や事例を提示し、考えさせ発表させる。教員は、生徒の考察状況を見て、ヒントを提示していく。考察された数値や事例に基づいて、理論と関連付けていく。

5 単元 (題材) の指導計画 (総時数 5 時間)

第二次	供給の概念と供給の変化		(5 時間)
∴	1 時	供給の概念 供給と価格との関係	
∴	2 時	最適生産量 (平均費用と限界費用①競争市場の場合	…本時
	3 時	最適生産量 (平均費用と限界費用②独占/寡占市場の場合	
	4 時	需要のシフトと価格弾力性	
	5 時	需要と供給事例案考察・発表会	

6 本時の指導と評価の計画 (第 二 次 第 2 時)

(1) 本時のねらい

限界費用と平均費用について理解し、最適生産量を求めることにより供給曲線の仕組みを知る。

【知識・理解】

(2) 準備・資料等 ~~ワークシート・パワーポイント~~

(3) 本時の展開

お金 → 貨幣

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の授業の復習</li> <li>○本時の学習内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の授業を振り返る。</li> <li>○質問に対し、発言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○価格と供給量の関係から供給曲線の右上がりになる理由を説明し、質問する。</li> </ul> <p>話しと書片断 板書で残す</p>	
展開 ① 展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最適生産(利潤最大化)</li> <li>○例題から最適生産量を求める。</li> <li>○教科書の例題から限界費用と平均費用を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明を聞き、ワークシートを穴埋めする。</li> <li>○最適生産量を求める。</li> <li>○限界費用と平均費用について求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最適生産についてパワーポイントを用いて説明する。</li> <li>○最適生産量の計算例を解説し、最適生産量を求めさせる。</li> <li>○机間指導をしながら生徒の質問に答える。</li> <li>○最適生産量を求める理由を伝える。</li> <li>○999個、1,000個の場合の計算の求め方を説明し、限界費用の概念を解説する。</li> <li>○ワークシートを完成させるために進行状況に応じて、解答を提示していき、解説を行う。</li> <li>○限界費用と平均費用の違いを理解しているか確認する。</li> </ul> <p>とは何だ? 79 - 書片断</p>	
展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○限界費用と平均費用から最適生産量を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループになり、最適生産量を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7グループに分かれ、2分間考えさせる。</li> <li>○グループ活動の進行状況に合わせてパワーポイントを使い、ヒントを提示する。</li> <li>①限界費用逓増の法則</li> <li>②限界費用と売上との関係</li> <li>③平均費用と限界費用と利潤との関係性</li> <li>○机間指導をしながら生徒の質問に対して答える。</li> <li>○計算を踏まえて、最適生産量と限界費用・平均費用の関係について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最適生産量の求め方と仕組みを理解している。</li> </ul> <p>【知識・理解】 (ワークシート)</p>

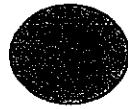
	○売上高が100円に設定されている理由を説明する。	○市場の中でのプライステイカーについて考える。	○競争市場とは何か。プライステイカーとは何かを説明し、ワークシートに記入させる。	
整理 5分	○本時の振り返りをする。  ○次回の内容の予告をする。	○本時の学習内容を重要な用語を中心にパワーポイントで振り返りをする。 ○授業評価ワークシートを記入する。	○本時の学習内容をパワーポイントや、ワークシートを使い振り返らせる。  ○授業評価ワークシートを記入させ、理解度を確かめる。  ○次回は、独占市場・寡占市場のときの最適生産量について学習することを伝える。	

(注) 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)を参考に作成する。  
学習指導案はA4判2枚以上となってもよい。(表裏印刷)

第2章 需要と供給

自己評価をやすく。  
 本時の目標は1時間で  
 書き言葉にする。  
 <供給曲線が右上がりになる理由ってなんだろう？> 前半

供給者Cさん



商品をしてできるだけ高く売りたい！  
 →利潤を多く出したい

→ ( )

<最適生産量を考えてみよう>

Q.次のときの最適生産量はいくつになるだろうか？

販売価格	1個あたり150円	
変動費	材料費	1個あたり80円
	労務費	1人目4,000円
		2人目10,000円
		3人目19,000円
固定費	10,000円	

なぜ？この金額設定意味付け。  
 一人当たり200個作るのが限界です...

実際に計算してみよう！

例) 1個目~200個目→この範囲の中で一番利益が大きいのは200個

売上高 150円×200個=30,000円

変動費 労務費 4,000円

(雇った人一人目(4,000円)で200個作り終えるため)

材料費 80円×200個=16,000円

固定費 10,000円

201個目~400個目 ※この場合計算する個数は400個である。

売上高 150円×400個= ( ) 円

変動費 材料費 80円×400個= ( ) 円

労務費 ※今回の生産量では何人必要になるかな？

4,000円(一人目) + 10,000円(二人目) = ( ) 円

固定費 10,000円

売上高 ( ) 円 - 変動費【材料】 ( ) 円 - 変動費【労務費】 ( ) 円 = 利益 ( ) 円  
 △固定費 ( ) 円

よって、400個生産したときの利益は ( ) である。

401個目～600個目 ※この場合の計算する個数は600個である。

売上高

変動費 材料費  
 労務費

固定費

よって、600個生産したときの利益は ( ) である。

→このように、一定量以上の生産がある場合には作れば作るほど損をしてしまうことがある！  
 一定量以上ってとってもピンとこないなあ…

### <損をしないギリギリの生産量はいくつだろう？>

それぞれの平均費用と限界費用を求めてみよう

生産量	変動費
①999個	74,920円
②1,000個	75,000円
③1,299個	89,900円
④1,300個	90,000円
⑤1,499個	124,870円
⑥1,500個	125,000円

生産量	①999個	②1,000個	③1,299個	④1,300個	⑤1,499個	⑥1,500個
平均費用	74.9					
限界費用						

← *しっかりと伝える.*  
 ( **限界費用** ) …最後に追加した1個当たりの費用

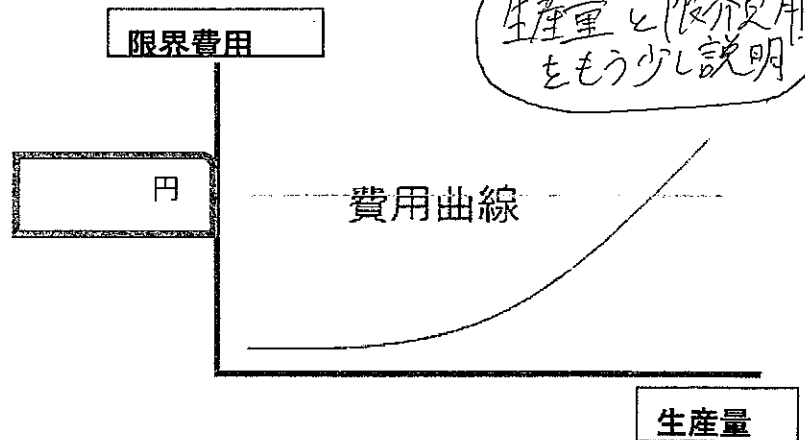
限界費用が、供給曲線のように右上がりの図になることを

( ) といいます。

<①～⑥の中で一番最適な生産量を表しているのはどれかな？>

一つ当たりの売上が100円の場合

計算式：

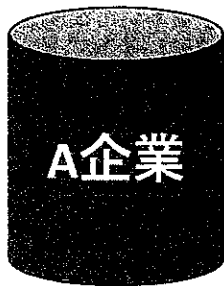


答え： \_\_\_\_\_

<売上の設定ってどうなってるの？> ※100円じゃない金額はダメなの？

結論：100円じゃなくてもいい！！

ただ！！ 品質が同じものを他に売っている人がいたらどうなるだろうか…



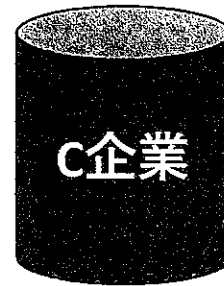
A企業

1個100円



B企業

1個80円



C企業

1個130円

( ) : 同じような商品を沢山の企業が販売していること

( ) : 価格を自分で決めることができない存在

次の授業では、同じものを他に売っていない人がいない場合を考えてみよう！